

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第108回

(平成27年1～3月期)

平成27年5月
桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成27年3月1日
3. 調査期間 平成27年1～3月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数160企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数20企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数72企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数36企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数32企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-35**。前期（-28）比は-7ポイントであった。また前年同期（-22）比では-13ポイントであった。

業種別では、**建設業-10**（前期比-15、前年同期比-15）、**商業・サービス業-48**（前期比-2、前年同期比-8）、**機械金属製造業-31**（前期比-14、前年同期比-48）、**繊維製造業-27**（前期比-7、前年同期比+5）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-35**。前期（-33）比は-2ポイント、前年同期（-29）では-6ポイントであった。

業種別では、**建設業-20**（前期比-15、前年同期比+1）、**商業・サービス業-52**（前期比-3、前年同期比-9）、**機械金属製造業-23**（前期比±0、前年同期比-30）、**繊維製造業-23**（前期比-3、前年同期比+9）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-28**。前期（-31）比は+3ポイント、前年同期（-40）と比べると12ポイントのプラスであった。

業種別では**建設業-12ポイント**（前期比-12、前年同期比+2）、**商業・サービス業-46ポイント**（前期比±0、前年同期比+11）、**機械金属製造業-14ポイント**（前期比+21、前年同期比+1）、**繊維製造業-12ポイント**（前期比-4、前年同期比+24）となっている。

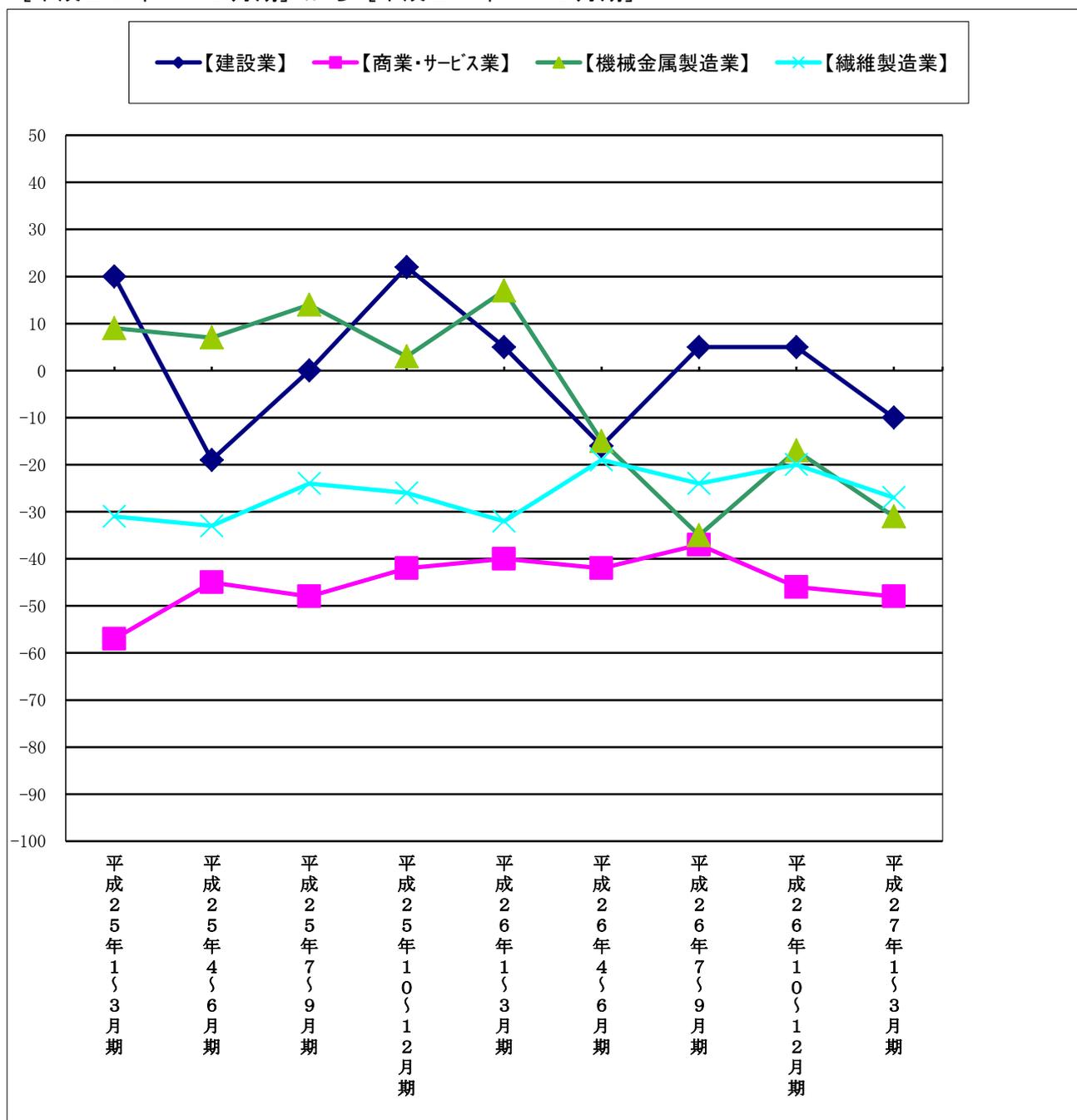
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「民間需要の停滞」（15%）「請負単価の低下・上昇難」（13%）**商業・サービス業**では「需要の停滞」（20%）「消費者ニーズの変化への対応」（13%）、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（17%）「需要の停滞」（13%）、**繊維製造業**では「需要の停滞」「製品単価の上昇難」（ともに17%）となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成25年1～3月期	20	-57	9	-31
平成25年4～6月期	-19	-45	7	-33
平成25年7～9月期	±0	-48	14	-24
平成25年10～12月期	22	-42	3	-26
平成26年1～3月期	5	-40	17	-32
平成26年4～6月期	-16	-42	-15	-19
平成26年7～9月期	5	-37	-35	-24
平成26年10～12月期	5	-46	-17	-20
平成27年1～3月期	-10	-48	-31	-27

[平成25年1～3月期] から [平成27年1～3月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-10**。前期比は-15、前年同期比でも-15であった。
業種別では**建築・大工業〔±0〕、土木業〔-50〕、電気工事業〔±0〕、その他〔-50〕**であった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-12**。前期比で-12、前年同期比では+2ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-48**。前期比は-2、前年同期比は-8ポイントであった。
業種別では、**卸売業〔-25〕、小売業〔-52〕、飲食業〔-14〕、サービス業では〔-56〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-46**。前期比±0、前年同期比では+11ポイントとなった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-31**。前期比では-14、前年同期比では-48ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業〔-60〕、金属製品業〔-17〕、一般機械器具業〔-33〕、電気機械器具業〔-100〕、輸送用機械器具業〔+17〕、精密機械器具業〔±0〕、プラスチック製造業〔-75〕、その他〔-50〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-14**。前期比+21、前年同期比+1ポイントとなった。

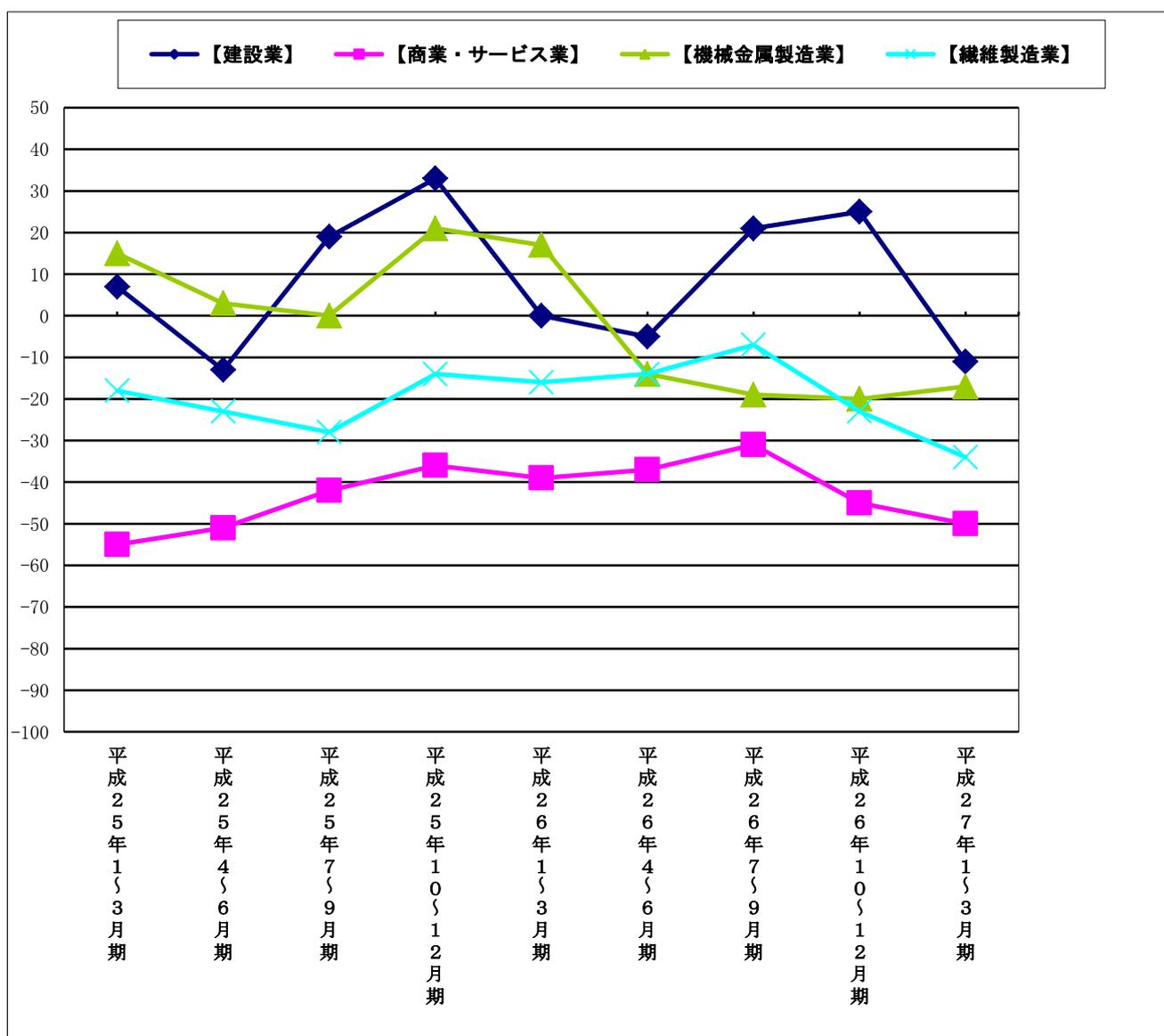
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-27**。前期比では-7、前年同期比では+5ポイントであった。
業種別では、**捻糸業〔±0〕、織物業〔-21〕、染色整理業〔-50〕、ニット・メリヤス業〔-50〕、レース業〔-100〕、縫製業〔-67〕、刺繍業〔+20〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-12**。前期比-4、前年同期比+24ポイントとなった。

売上額（完成工事額）DIの推移

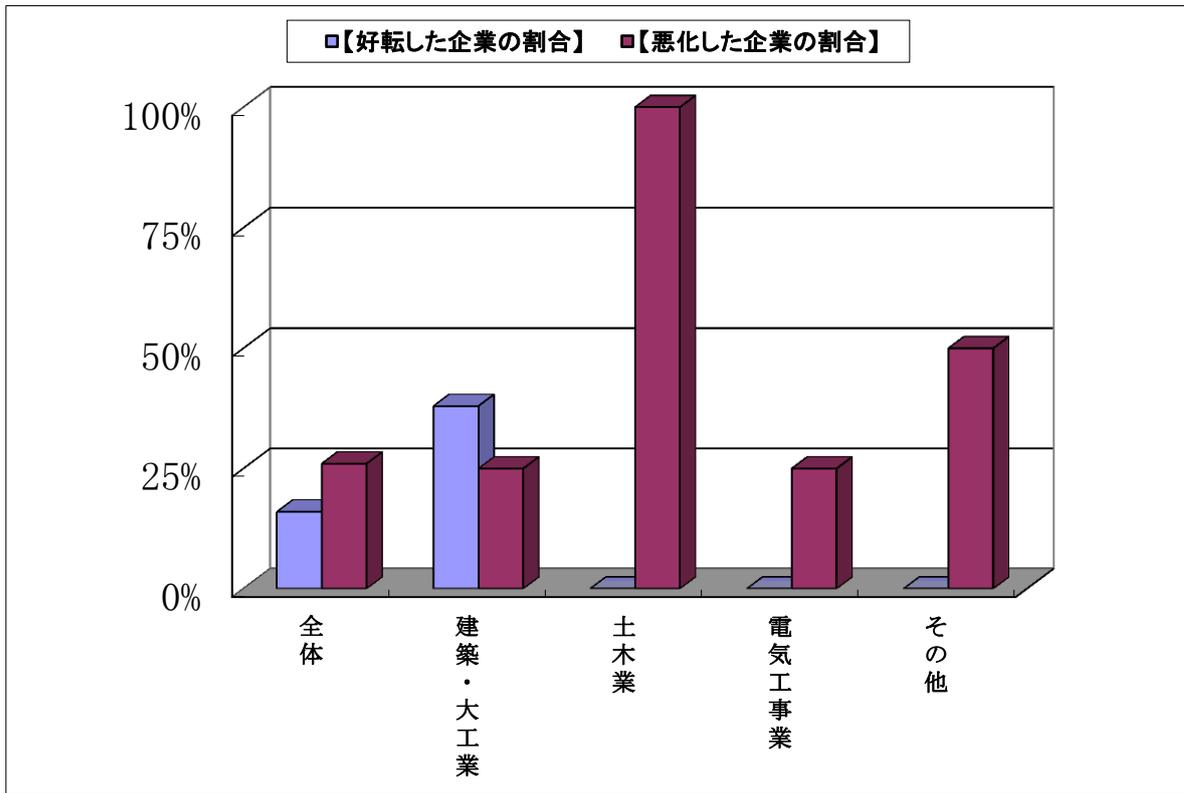
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成25年1～3月期	7	-55	15	-18
平成25年4～6月期	-13	-51	3	-23
平成25年7～9月期	19	-42	0	-28
平成25年10～12月期	33	-36	21	-14
平成26年1～3月期	±0	-39	17	-16
平成26年4～6月期	-5	-37	-14	-14
平成26年7～9月期	21	-31	-19	-7
平成26年10～12月期	25	-45	-20	-23
平成27年1～3月期	-11	-50	-17	-34

[平成25年1～3月期] から [平成27年1～3月期]

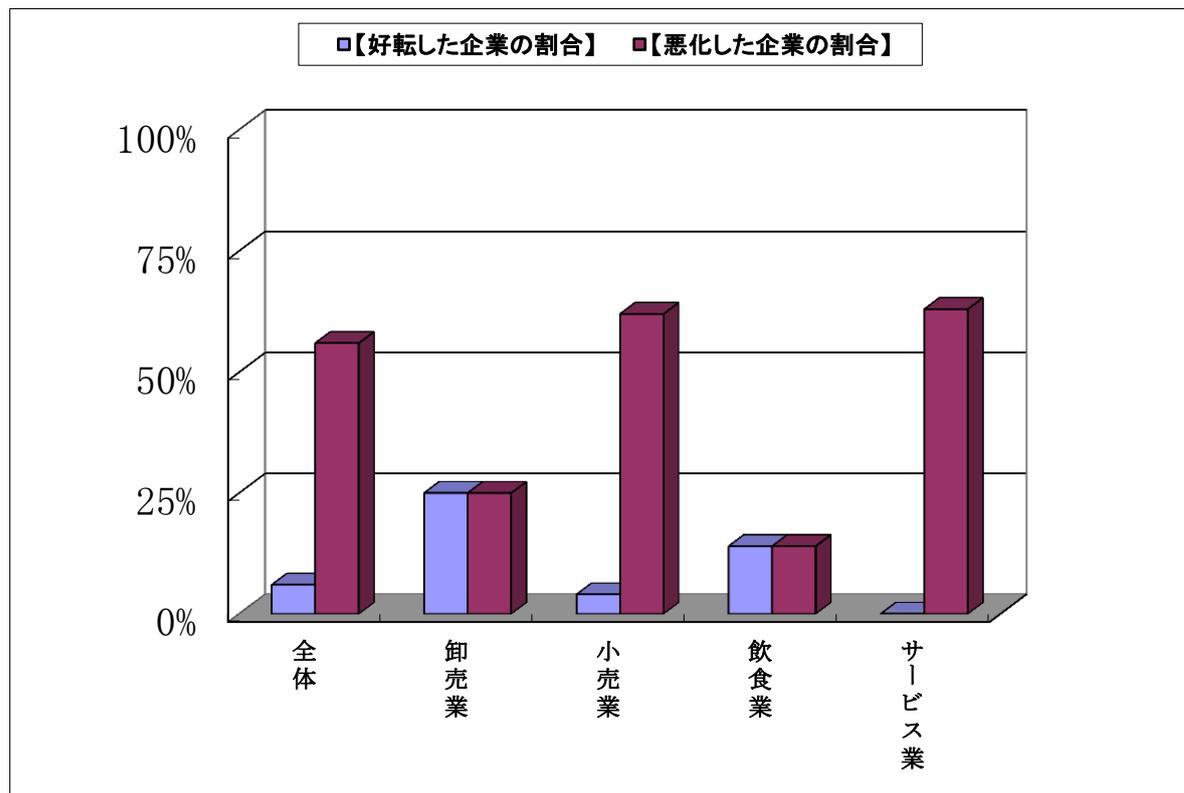


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

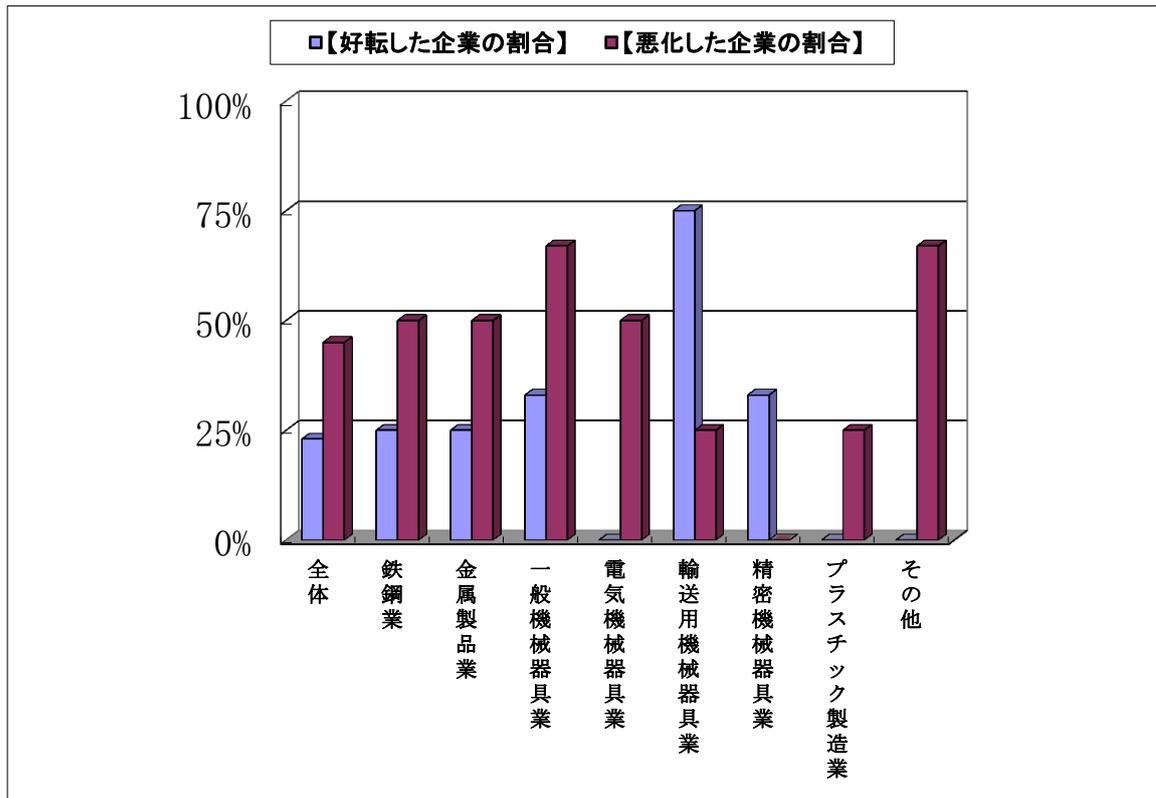
【建設業】



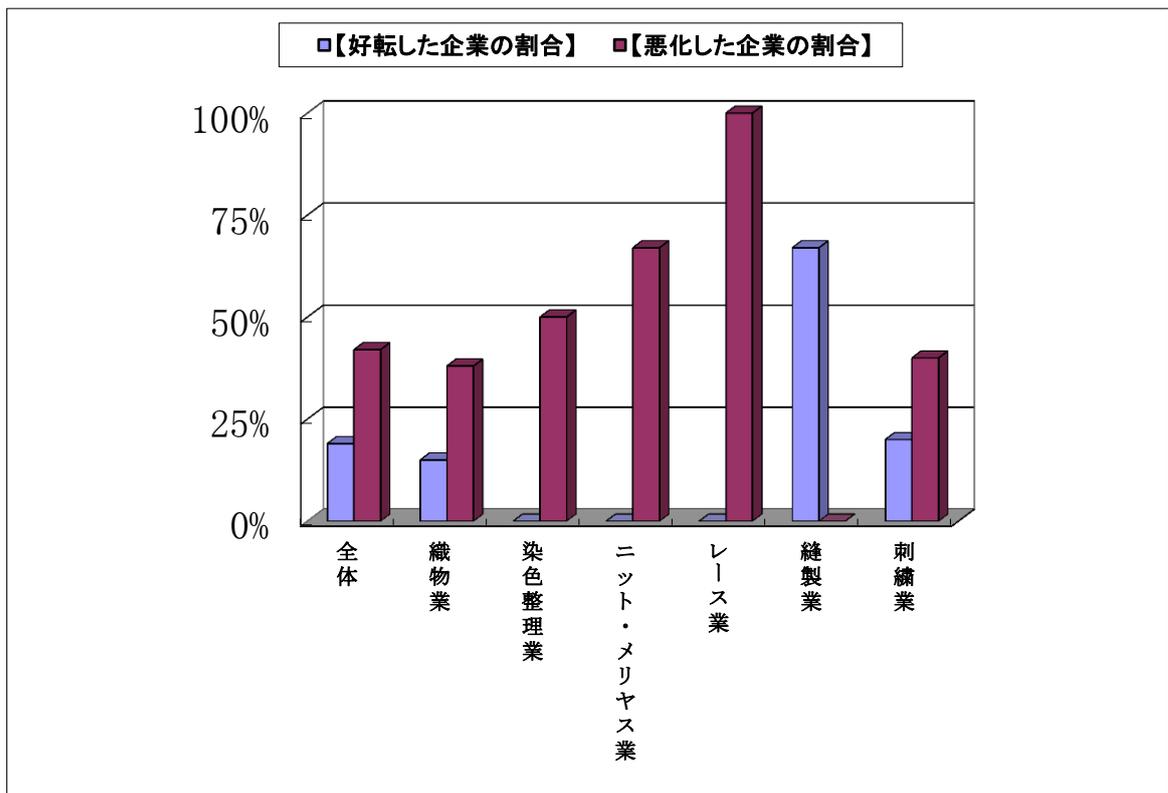
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



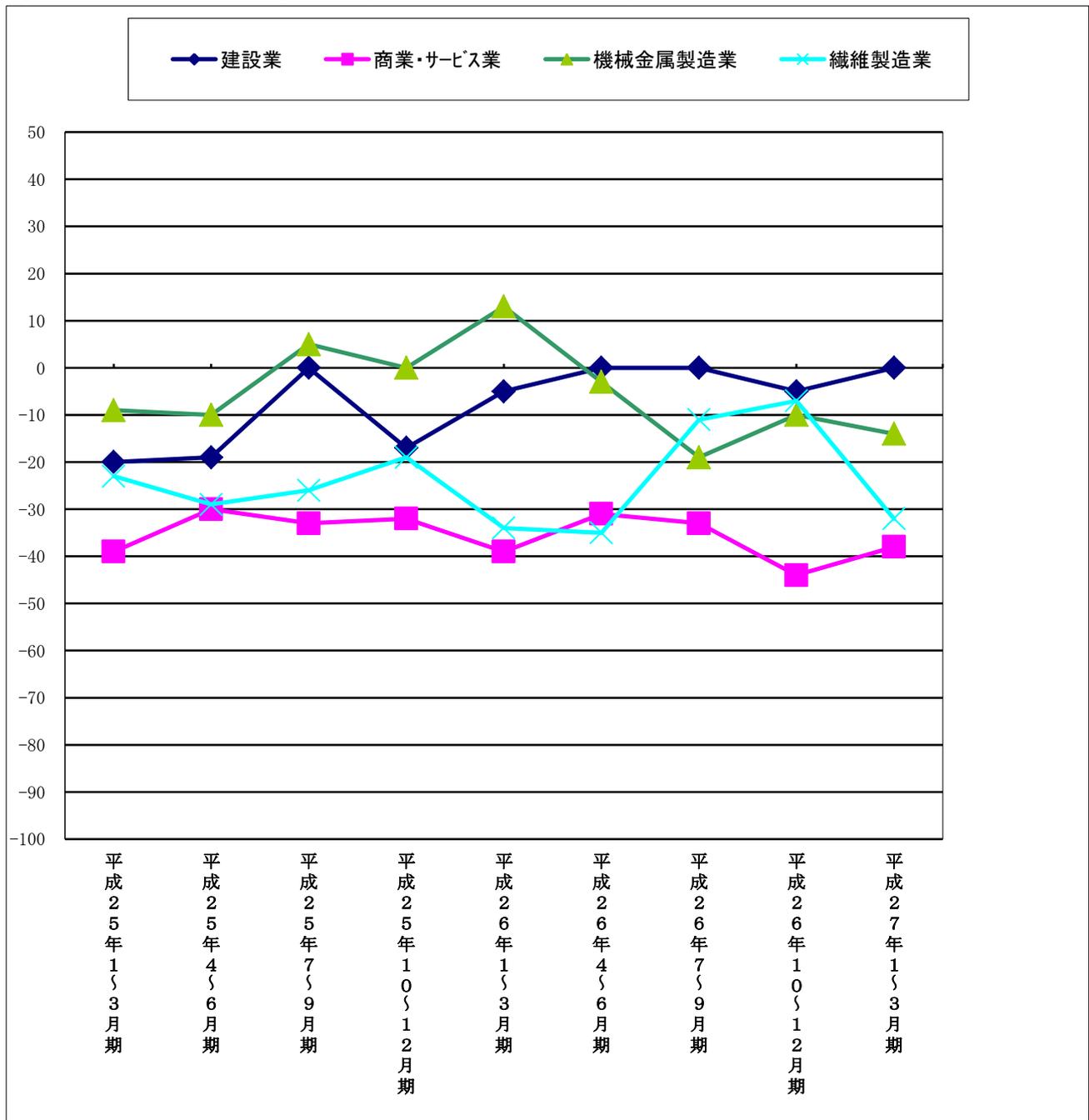
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成25年1～3月期	-20	-39	-9	-23
平成25年4～6月期	-19	-30	-10	-29
平成25年7～9月期	±0	-33	5	-26
平成25年10～12月期	-17	-32	±0	-19
平成26年1～3月期	-5	-39	13	-34
平成26年4～6月期	±0	-31	-3	-35
平成26年7～9月期	±0	-33	-19	-11
平成26年10～12月期	-5	-44	-10	-7
平成27年1～3月期	±0	-38	-14	-32

[平成25年1～3月期] から [平成27年1～3月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)	
建設業	民間需要の停滞 15.4	請負単価の低下・ 上昇難 13.5	材料価格の上昇 11.5	熟練技術者の 確保難 11.5	従業員の確保難 7.7	
前期	3位 10.9	2位 12.7	1位 14.5	6位 7.3	3位 10.9	
前年同期	4位 7.7	2位 11.5	1位 25.0	3位 9.6	9位 3.8	
商業・サービス業	需要の停滞 20.8	消費者ニーズの 変化への対応 13.7	購買力の他地域 への流出 12.0	材料等仕入単価の 上昇 7.7	販売単価の 低下・上昇難 6.0	大企業進出での 競争激化 6.0
前期	1位 17.0	2位 11.3	2位 11.3	6位 7.2	4位 8.2	5位 7.7
前年同期	1位 19.6	2位 14.6	2位 12.1	4位 11.6	6位 6.0	5位 8.0
機械金属製造業	製品単価の低下・ 上昇難 17.0	需要の停滞 13.6	生産設備の不足・ 老朽化 10.2	熟練技術者の 確保難 9.1	製品ニーズの 変化への対応 8.0	
前期	3位 13.8	1位 16.9	4位 12.3	7位 7.7	6位 10.8	
前年同期	1位 19.1	2位 16.2	4位 10.3	6位 5.9	6位 5.9	
繊維工業製造業	製品単価の低下・ 上昇難 19.3	需要の停滞 19.3	原材料価格の上昇 14.8	製品ニーズの 変化への対応 11.4	生産設備の不足 ・老朽化 9.1	
前期	2位 16.9	1位 20.5	3位 15.7	6位 7.2	6位 7.2	
前年同期	2位 18.2	1位 19.3	5位 9.1	3位 11.4	3位 11.4	

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成25年1～3月期	7	-5	16	-6
平成25年4～6月期	6	-11	23	-10
平成25年7～9月期	6	-4	8	-9
平成25年10～12月期	-6	-9	16	-15
平成26年1～3月期	-5	-12	21	-14
平成26年4～6月期	22	-4	19	-12
平成26年7～9月期	26	-15	18	±0
平成26年10～12月期	20	-11	8	7
平成27年1～3月期	5	-2	15	±0

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【建設業】

- ・ 県内他市と比較して社会資本整備への投資が若干少ないと思う。特に道路整備等。
- ・ 豊業界は受注が減少。特に平成 26 年 11 月から悪化。

【商業・サービス業】

- ・ 店主、お客様の高齢化により若いお客様がいない。店舗の老朽化も理由としてあると思う。後継者もいない
- ・ 固定客の高齢化による減少。新規の客の確保も難しい。
- ・ 桐生市ブランド商品の開発
- ・ 当社は高額商品の販売企画を主体に運営しているが、購入者の資金調達がままならない為、結果として当社の企画・提案の契約・販売に結び付かない。従って年間見通しでの計画売上が確保できない状況。もう少しプレゼンテーションでもと考えるが、現況、経済の見通しがあまり良いとは言えなく空振りに終わってしまっている。マスコミで言われている程、一般消費者のところまで良い状況とは言えない。
- ・ 販売単価を上げることが出来ない。仕入単価は上昇している。小規模小売店にも目を向けてほしい
- ・ 需要の停滞が続いている。メーカーや問屋は地方景気の厳しさは全国的規模だと言っている。
- ・ 夫婦 65 歳以上で営業しているのであと何年続くかと思いつながら頑張っている。
- ・ 粗利の低下
- ・ 人口減による需要の低下、他地区への流出
- ・ 従業員の高齢化
- ・ 企業誘致に積極的になってほしい
- ・ 1 件当たりの販売単価が低下の傾向
- ・ 販売単価が低下の傾向にある

【機械金属製造業】

- ・ 為替の変動
- ・ 新製品開発に力を入れている

【繊維工業製造業】

- ・ 市況は依然として低迷している。業界の常識の大転換期。各々の企業の本気度に掛かっていると思う。